

1. 石垣市立八重山博物館（新館）建設について

背景

石垣市立八重山博物館の現状と課題

施設が古い

1972年開館。施設や設備が古く、適切な展示・収蔵環境が難しい状況です

施設がせまい

約2万点の貴重な資料の収蔵、魅力を伝える展示、多様な活動のためのスペースがありません

駐車スペースが十分ではない

専用の駐車台数は3台。団体バスや障がい者のための駐車スペースがありません

十分な来館者サービスができない

希望の多い自然関係の展示がなく、カフェやショップ等も設けられない状況です

石垣市の将来像

- 石垣市の総合計画では「いつの世までも魅力と幸せあふれる島づくり」が基本理念とされています
- 観光基本計画では「持続可能でより良い社会を求めて世界中の人々がつながるまち～石垣島の未来は地球の未来～」が将来像とされています

博物館法の改正

- 令和4年度、博物館法が改正され、これからの博物館は地域の文化観光の促進への寄与が求められるようになりました
- 八重山博物館は登録博物館（法律上の博物館）として、新しい潮流への取組※が求められています

※文化庁 博物館総合サイト
<https://museum.bunka.go.jp/law/>

このままでは、すでに収蔵している資料もダメになってしまう

資料を守りながら適切に展示するため、平成9年度、平成26年度においても、新館の検討を行っており、今年度はそれらの内容をふまえて、あらためて検討を行うものです

新博物館の建設に向けた検討

市と有識者による検討

令和6年度、歴史、文化、自然、観光等の多分野の有識者による検討委員会を行い、基本的な考え方を検討しています

市民の皆様からのご意見を反映
〈パブリックコメント〉

基本計画策定

設計・その他

2. 石垣市立八重山博物館（新館）の基本的な考え方

どんな博物館が良いのでしょうか？

八重山の歴史と文化、人の暮らしと深く関わる自然がわかる新しい博物館と、様々な体験を提供したり、飲食店のある屋外空間を活用して、いろいろな世代の方々、特にお子様連れの方も楽しく集える場所を検討しています

〈石垣市の案として〉



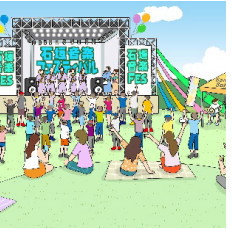
新博物館

八重山の自然、歴史・文化等を楽しみながら理解し、過去から未来を考えていく場所

+

憩いと賑わいの空間

博物館の周辺に人々が集える新たな空間づくりを検討しています



新博物館の基本理念(案)とめざす姿

基本理念(案)

八重山の自然と歴史や文化の探究・未来創造拠点

八重山博物館が有する資料（モノ）や伝統文化、記憶等（コト）から八重山の自然や歴史、文化の探究の拠点とし、それらを礎に、まちづくりやひとづくりに貢献する、未来を創造する拠点となる

新博物館がめざそうとしているもの

『ひとづくり・みらいづくり博物館』

守り受け継ぐ博物館

- 八重山の自然、歴史、文化に関する資料（モノ〔実物、複製等〕、コト〔映像・音声等〕）、芸術作品等を収集し、適切に保存する

伝える博物館

- 八重山の自然、歴史、文化への理解を促し、無形の文化遺産の未来への継承を行う
- 八重山の魅力を伝える、持続可能な文化観光の創出につなげる

共有する博物館

- 石垣市民や観光客等が、博物館の事業活動に参加することで八重山地域への理解を深める
- 交流を通して、多様な視点や価値観等を共有することで、生まれ育った地域を知り、産業や持続可能な観光等への新たな発想を生み出す

育む博物館

- 博物館の根幹となる学芸員等の専門員を育成する
- 博物館のモノ、ヒトを活かし、多世代への学びの提供（教育普及）に寄与する
- 「本物」の芸術に触れる機会を創出することで、情操・感情教育の場となる

未来を創造する博物館

- 長い歴史とそのなかで育まれた八重山の類まれな文化の探究、そして、その価値と意味を広く伝える博物館の活動を継続し、八重山のよりよい未来の創造につなげる
- 国内外の多くの博物館と連携し、様々な企画展を開催することで、時代のニーズにあった展示を構成できる施設とする
- 博物館の事業活動の持続的・発展的な展開により、石垣市の文化行政を担うひとづくりを行う

3. 新博物館の事業活動（案）

博物館基盤活動

収集・保存

- コレクション・ポリシーを策定し、寄贈、寄託の受け入れ、購入、採取、作成等により収集する。必要に応じて有識者による収集委員会を設置し、そのアドバイスをふまえて収集を行う
- 高温多湿、塩害、虫害といった八重山の自然環境に配慮して、施設の拡張性も重視しながら適切な保存環境を整える
- 正確性と利活用のしやすさを考慮し、適切なデジタルアーカイブを構築し、博物館の事業活動に活用する

調査・研究

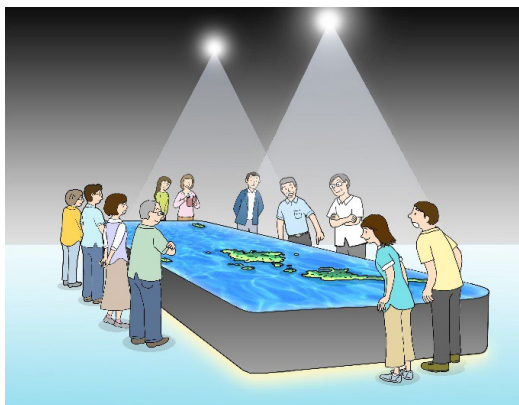
- 八重山の自然や歴史、文化の理解につながる資料、テーマに関する調査・研究を行う
- 活動の成果は、展示や教育普及活動、その他の博物館の事業活動へ反映し、公開及び活用の促進につなげる

展示

- 八重山の自然、歴史、文化の理解につながる資料をわかりやすく展示し、広く一般に公開する
- 館で収蔵、借用する美術作品等の展示を通して、本物と触れ合う機会を創出し、世代を問わず豊かな情操を育む機会を提供する
- 常設展示と企画展示、市民参加で多目的に展開するフリースペース展示を行う



八重山の自然、歴史、文化等に関する約2万点の貴重な資料を活かした展示



〈常設展示〉

- 八重山の自然、歴史、文化の理解につながるテーマによる、多様な資料、わかりやすい解説等による展示

〈企画展示〉

- 常設展示の内容をより深く紹介する、また常設展示のテーマに限らず多様なテーマを伝える展示

〈フリースペース展示〉

- 無料ゾーンで、こどもたちが触れることができる実物資料のレプリカや、知育玩具等を配置し、気軽に訪れて遊びながら学ぶことができる展示

〈ロビー展示〉

- ロビー展として、博物館活動の成果やスペースを借りた市民が自由な展示を行う

〈美術展示〉

美術館機能も検討中

「八重山の美やその他の芸術品」

- 八重山の作家や伝統工芸職人による美術作品等の展示
- 寄贈等により新たに収蔵される美術品の展示

黒潮に育まれた八重山の自然、歴史、文化について新しい技術を用いたわかりやすい展示で紹介

基本理念(案)

八重山の自然と歴史や文化の探究・未来創造拠点

博物館基盤活動

博物館が行う事業活動

学習・創造支援活動

市民・来館者の学習や創造活動の支援

交流・地域連携活動

多様な団体や事業者等と連携による文化観光促進支援

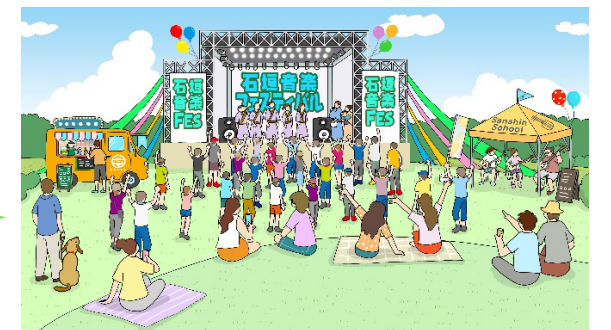
文化・観光・経済の好循環を生み出す場所

交流・地域連携活動

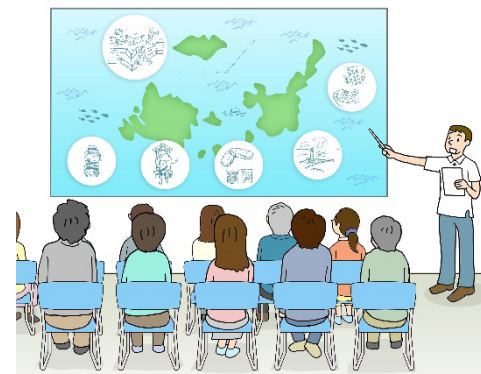
- いろいろな分野の施設や機関・団体、事業者等と連携を図り、新博物館における調査・研究の成果や所蔵資料等を活用して、石垣市の新しい、持続可能な観光コンテンツを創出する
- 新博物館の施設や屋外空間等の貸出や活用を図り、地域の生涯学習に関する意欲に応えるとともに、国際・地域交流を促進する活動を展開する

活動展開例

文化観光促進支援／文化体験・交流／博物館の施設貸出／MICE利用 等



屋外の空間で行う自然、歴史・文化に関する多様なイベントで新たな賑わいを創出



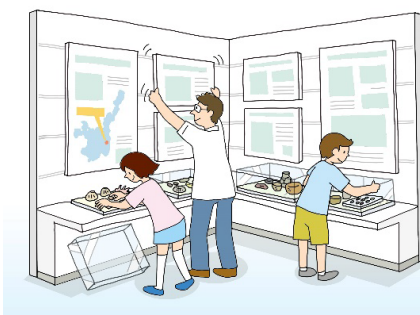
会議室や多目的室を活用した、こども博物館教室やMICE、その他イベントなどを開催

学習・創造支援活動

- 学芸員の調査・研究活動を充実させ、市民からの問い合わせに応えられる体制を構築する
- 展示への理解、来館者・利用者のさらなる関心につながる教育・普及活動を行う
- 市民に生涯学習の場と機会を提供し、その学習意欲に応える活動を行う
- 八重山の歴史や文化の理解を深めるため、発見や創造につながる体験型の活動を行う

活動展開例

こども博物館教室等、教育普及活動の推進／生涯学習支援／学校教育との連携 等



こども博物館教室や市民参加型の活動の成果の公開・発表で市民の学習意欲に応えます

体験型のプログラムを実施したり、市民サークル等に施設を貸し出して、様々な活動の場を提供



4. 建設候補地の検討

過去の構想・計画をふまえた建設候補地の検討

- 平成25年度にまとめられた「新石垣市立八重山博物館（仮称）建設基本構想策定業務（調査業務）」では、市内の北部・西部・中部・東部・南部地域について、下記の視点から比較検討が行われました
 - I. 市の土地利用方針との整合性
 - II. 土地利用・開発の容易性
 - III. 観光客・市民のアクセス性
 - IV. 観光施設等の集積性
- 平成26年度に策定された「新石垣市立八重山博物館（仮称）建設基本構想書（以下、「基本構想」とする）」では、おおそバナ岳のラインより南側の石垣島南部地域が良いのではないか、とされました。また、基本構想では、これまでの検討で候補として挙げた地点として下記が記載されています

- 1. 第一苗畑（バナナ公園に隣接）
平成10（1998）年「新石垣市立八重山総合博物館（仮称）基本計画」において、新博物館の建設地として挙げられている
- 2. 旧空港跡地（フルスト原遺跡に近接）
平成24（2012）年「石垣空港跡地利用基本計画」において、新博物館が跡地利用の候補の一つとなっている

今回の基本計画では、上記の2地点に加え、**現在の八重山博物館が立地する地点**も加え、3地点を候補地として検討を進めています

建設候補地（案）

- 3地点、それぞれの位置関係を下の図に示しました。



候補地それぞれの特徴

建設候補地（案）	主な特徴〔○利点 ●課題〕
A 現在の八重山博物館の立地 石垣市 字登野城 4 番地 1 他	○市有地である ○市街地にあり、石垣港、バス停に近くアクセス性が良い ●十分な施設規模、屋外の活動空間の確保が難しい ●海に近いため、風による湿度対策、塩害対策が求められる。津波浸水想定区域内である ●団体バス、障がい者用の駐車スペースがない ●隣接する石垣市蔵元駐車場は地中に保存された遺跡（八重山蔵元跡遺跡）があり、施設周辺の土地に拡張性がない
B 第一苗畑 石垣市 字 石垣 1403-1他	○市有地である ○バス利用可、十分な駐車スペースを確保できる ○十分な施設規模、屋外の活動空間を確保できる ○候補地の中では内陸部で津波被害や塩害の危険性が他候補地より低い ●森に隣接しているため、十分な湿度対策、虫害対策が求められる ●土地に高低差があるため、用地造成作業が必要となる
C 旧空港跡地 ※土地利用計画(案)における生活複合系施設用地 石垣市 字大浜田原693番地2他	○市役所、八重山病院に近い ○近隣に史跡フルスト原遺跡がある ●建設用地は取得する必要があるため、博物館周辺に拡張性がなく、総事業費が他の候補地よりも増大する ●土地区画整理事業や周辺のインフラ整備を待つため、用地取得交渉や開発行為が可能となるのは、令和13年度以降になる見込み。また、令和6年10月に変更された土地利用ゾーニングでは「生活複合系施設用地」に変更され文化施設は想定されていない ●海に近い台地に位置するため、海風による湿度対策、塩害対策が求められる

パブリックコメントについて

皆様からのご意見をお待ちしております。
QRコードを読み取ってご回答ください。

パブリックコメントの回答は、石垣市市民、石垣市に事業所、学校があり、通勤・通学している方に限られていますのでご注意ください。



★書面での提出をご希望の方は、下記窓口で配布、受付しています。
石垣市企画部観光文化課
博物館建設準備室
（電話：0980-82-1535）

<https://logoform.jp/form/2F2k/853207>

回答期限
令和 7 年1月24日